

令和3年度 第2回 沖縄県 SDGs 専門部会 Partnership（パートナーシップ）部会
議事概要

日時：2022年3月2日（水）14:00～15:30

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

倉科委員、首里のすけ委員、新膳委員、長濱委員、平田委員、満尾委員

（オブザーバー）

恩納村、石垣市

（沖縄県）

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

平成3年度の第2回になります SDGs パートナーシップ専門部会、開催させていただきたいと思っております資料につきましては資料1、資料2ということで会議資料とアクションプラン素案の2つのファイルをお送りしております。発言機会以外はハウリング防止等のためにミュートにてお願いいたします。本日は全員参加ということでございますオブザーバーの石垣市、恩納村の担当の方にも参加いただいております。時間も限られておりますので進行の方に移らせていただきます。よろしくお願いいたします。

（進行）

皆さんこんにちは本日はどうぞよろしくお願いいたします。年度末ご多用な中お集まりいただきありがとうございます。前回12月22日に皆様からのアクションプランの骨子についてご意見をいただきました。その後、骨子を取りまとめ、市町村や関係団体への意見照会をおこないまして、今回素案という形で推進本部の承認を得て、素案について取りまとめをしました。その素案に関して、広く皆様からまたご意見、ご助言をいただきたいと思っております。本日は忌憚のないご発言どうぞよろしくお願いいたします。ではまず始めに事務局より資料全体をご説明しまして、そこから委員の皆様にご意見を頂戴する形で進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それでは事務局の方から説明いたします。

（事務局）

資料1の方でご説明させていただきます。こちらの資料で今日は議事としてアクションプランの素案が大きな議題です。プラスアルファで他の専門部会でも具体的な取り組みの必要性やプラットフォームの提案など意見もありましたので、報告事項という形で現状を資料としてまとめております。その他、具体的な取り組みについても専門部会の中でご提案

いただければと思っております。

まず、資料1のスライド1です。これまでの検討の経緯となっております。12月の専門部会の後に市町村もしくは関係団体各部局を通じてかなり幅広い関係団体に意見照会させていただきました。SDGs パートナーの皆様にも意見照会をさせていただいて、これを取りまとめた上で前回骨子には指標等は入っておりませんでしたけども、今回指標を加えて素案として取りまとめております。昨日、沖縄県 SDGs 推進本部を開催してこの素案を決定させていただきました。この素案について、皆様にご意見をいただくため専門部会を開催させていただきました。同時並行で関係団体、市町村にも併せて意見照会をさせていただいておまして、3月末にはアクションプラン案を決定し、パブリックコメントを経て、5月に最終的な決定を予定しております。

次のスライドでは、骨子から変更になったポイントを記載しております。まずは有識者、各団体からの意見を反映する方向で検討再検討させていただきました。グローバルスタンダードの視点という意見についても検討させていただきました。加えてゴール・ターゲットを追記しております。

ローカル指標の追記はアクションや目的に沿って色々指標設定することも考えられましたが、アドバイザーボードもこのグローバルスタンダードという意見もありましたので、やはり国連のグローバル指標の観点も踏まえつつ、内閣府の方で地方創生 SDGs ローカル指標を検討しました。新たな振興計画に関する成果指標も勘案しながら順番にグローバル指標、内閣府のローカル指標、振興計画の指標、これは独自の指標という形になりますけども、この順番で検討していきました。

目標値については、数字が入っているものと令和4年度に設定する項目があります。令和4年度から新たな振興計画がスタートで、その実施計画は来年度策定することになっていてこの基本計画に沿った実施計画で、その中で各施策の指標や目標値が検討されることになっており、現時点で設定が難しいというものがありますので、令和4年度に設定することでアクションプランの中に記載させていただいております。

もう一つ、専門部会の意見もそうですし、関係団体からの意見もありましたけど、特に人権とジェンダー平等の話がございました。アクションとか目的の各論の方にいくのではなくて全体に通ずる根幹的な問題なので、全体的なものとして整理すべきじゃないかという意見がありました。ほかにも5原則の話とか統合的な取り組みの観点もかなり専門部会でも意見がありましたので、そういった点や人間の安全保障・人権、ジェンダー平等、満尾委員から意見があった国の重点事項についても追記する方向で整理をさせていただきました。これを見るとトレンドが分かるという形で入れさせていただきました。

アクションプランの最後に図が入っている形になっています。これは統合的な取り組みのモデル事例ということで追加しました。専門部会の色々なご意見の中で統合的な取り組みという形で見せないと各論が分散しているから分かりづらいというお話もありましたし、具体的な取り組み、具体的なテーマで統合的な取り組みというのを見せるべきだという

色々な意見がありまして、今回アクションプランの一覧表とは別にちょっと具体的なテーマを設定して、その上で色々な経済・社会・環境の総合的な取り組みのイメージを持っていただくような形で絵を取りまとめました。今回5つのテーマを設定して順次この辺は増やしていくということを想定、入り口として代表的な1つということで今回設定しております。これが大きな修正点というか変更点になっております。

先ほどの統合的な取り組みの話もございまして前回の資料だとこれが入っておりませんでした。12の優先課題の下に重要な共通的な観点というのを入れた上で、各論の目標・アクション。その目標ごとのゴール・ターゲットという整理をし直したということが1点。当初はアクションの下に色々な施策とか取り組みという記載をさせていただいていました。以前、県の基本計画に関連する施策とSDGsとターゲットと関係に整理したことがあります。基本的な施策だけでも数百施策、主な事業だと2,000事業くらいのボリュームになるので、このインプットにより有識者会議で議論していった深めていくということよりも、具体的なテーマをベースに各論を議論していく、個別の専門的な議論していくところが効果的ではないかと考えております。統合的なモデル事例は5つ設定させていただいておりますが、順次増やしていく形で毎年見直していく方向です。

プラットフォームとアクションプランのイメージ図の中で変更した部分というのがこちらになります。あとは前回の資料ではプラットフォームが二つある図でご説明させていただきました。分かりづらいというご意見もあったので、全体の体制といろんな関係団体が集まるような枠組みでプラットフォームと、少し表記を統一して整理をして分かりやすくしたというのが変更点です。

次のスライドをご覧ください。指標設定について少し考え方だけご説明させていただきます。指標の検討にあたってグローバルスタンダードの視点で指標も検討するということもお話もありました。非常に情報量も多く、とっかかりが難しいので、どのように整理を始めるかということを検討の前段階で検討したという入口の説明となります。

SDGs 指標についてはグローバル指標、国際指標がありますが、国家単位の指標になりますので、地方自治体には馴染みにくいものが多いです。内閣府の方では、グローバル指標を踏まえて地域の指標、ローカル指標として地方創生 SDGs ローカル指標を有識者会議で検討し、2019年に公表しています。これをベースに法政大学の川久保研究室というところで、データベースが作られております。川久保先生がこの指標、ローカル指標の検討委員会の委員でもあります。川久保先生が指標をベースに各都道府県市町村の取組状況をスコア化してデータベースを作っていて、ローカル SDGs プラットフォームとして、会員登録すると誰でも見られるようになっております。これで都道府県ごとのスコアリングの評価を比較などできることになっているというのが一つと、そういったものも使って先行検討として大阪府の方で国際的な日本の評価と地域自治体の評価の二軸で整理をして分析をしているという事例がありました。ちょっとこの辺を参考に考えてみようということで、後ほど資料も見させていただきますけど、一つの事例として参考にさせていただいております。

結論からすると課題として書いていますけど、特に地方創生 SDGs ローカル指標は各地域の比較というのが当然可能ですけども分析結果、これは指標の立て方になるかと思いますが、分析結果と地域課題認識にズレが出てくるなというところが課題と受け止めています。そういう意味で独自の指標設定というのも必要と考えております。

次のスライドですが、例えばこれはあくまで事例ですけど、各指標を記載しています。ゴール 1、貧困をなくそうというゴールに対して、ターゲットがあります。このターゲットに対して国際指標、グローバル指標というものがあります。内閣府の SDGs ローカル指標はこういったものも踏まえて、例えば統計的に数値を確認できる指標を整理しています。ただ「候補の指標検討中」というものがあったり、貧困をなくそうということですが、上下水普及率が入っていたりしています。また、年間収入階級別世帯割合は人口 15,000 人以上の市町村のデータが公表されているようで、都道府県単位の数字が確認するところは研究が必要と考えています。

次のスライドは参考資料です。これは大阪府の分析に使っている報告書やローカル SDGs プラットフォームを説明しています。

次のスライは、大阪府の指標分析の事例です。自治体の指標と国際的な指標という 2 軸でというお話も先ほど資料にありましたけど、先ほどのスコアリングを例えば 50 を中心に、50 以上であれば自治体指数が高い、下であれば低いという整理。国際的なところも高い低いで分けていくと、日本が国際的に評価されていなくて、でも自治体としては評価が大阪府の指標が高いものとか四つのこういう 17 のゴールごとに群が作れるという、こういう手法を大阪府がとっていて、あくまでも検討の入り口としての話ですけども、じゃあこれを沖縄でどうやって当てはめてやってみたらどうかということをやってみました。

次のスライドをご覧ください。国際指標の分析については大阪府のデータをそのまま使わせていただいている、この自治体の指標の関係を整理したらどうなったかということ、こういう沖縄県の分類になったということになります。

自治体指数から見た沖縄の評価というのは、貧困という観点だと自治体指数が高いということになります。沖縄県の今の最重要課題が子どもの貧困対策で、それを改善していこうと取り組んでいる課題認識とズレが生じています。健康寿命に関しても課題になっていますが、これも自治体指数としては高いという整理になっています。そのため、地域の実情を踏まえ、実体がしっかりと測れるような指標を作る必要があると考えています。結論としては国際指標と地方創生、ローカル指標というのは要るけれども、使えるものは使いつつ、馴染まないものは全部独自の指標を立てていくということで今回作業させていただきました。

次のスライドから指標一覧を記載しています。全部で 59 指標を立てておりますけども、あまり多くなると議論していく時にまとまりがなくなってくるということもあって、あんまり多くなりすぎないように設定しております。国際指標つまり国連のグローバル指標が適さない、地方創生 SDGs ローカル指標が適さない、場合に独自の指標を設定しています。

例えばジェンダー平等の関係だと、これは国際指標で管理職に占める女性の割合というのが既にありますのでこれは国際指標を採用しています。他の二酸化炭素排出量というのも非常に重要な指標ですけども、実はSDGsの指標の中にこの二酸化炭素排出量という指標がありません。国際指標・地方創生の方にもないものですから、独自の指標として1人当たり二酸化炭素排出量というのを入れています。国際的なパリ協定の関係も含めて、国際的な指標として使われています。再生可能エネルギー比率についても国際指標がありましたのでこれを採用しています。このような形で独自の指標を設定するものもあれば国際指標を設定するもの、地方創生ローカル指標のものも有るといった形で目標毎に検討を行いました。

次のスライドに報告事項として、プラットフォームの説明を記載しております。これは来年度に立ち上げる方向で準備を進めています。他の部会の中でも具体的な取り組みを進めていくべきという意見も多いので、プラットフォームによる連携などの促進を考えています。県内の企業、団体、教育機関、あとは市町村、個人の方々も自由に参加できるようなそういう枠組み、ローカルで閉じずに県外の方々も参加いただけるような枠組みを検討しています。会員登録という形になると思いますけども、登録いただいた方々に対して普及啓発イベントとかセミナー、交流イベント、もしくはテーマ毎の各種会議を、例えば脱炭素だったら脱炭素、そういうこともやっていけるように、さらにはコーディネーターを置いてプロジェクトとか連携した何か色々な取り組みとか広がっていくような事務局機能を検討しています。

今話を詳しく整理したものが次のスライドになります。お時間がある時に見ていただいて何かございましたら前回と同じように様式等で後日ご意見をご提出いただければと思います。

次に資料2でアクションプランの素案について説明させていただきます。スライド3までは概ね情報量を増やしておりますけども、大きな変更はございません。このスライド4は新たに追加した重要な視点です。

まずはSDGsの5つの主要原則。これはもう国連のアジェンダにも入っていますし、国の実施指針でも強く謳われています。こういった視点を持ってやっていきたいと思いますということと、それに加えてバックキャスト、自分事として捉えるとかあとはステークホルダーの関与、連携しましょう、パートナーシップの話になります。そういった主要な要素というものを入れつつ、あとここに重要な視点として1パラグラフにて統合的取り組みが必要だと。アクションプランの1個1個をそれぞれでやっていくということではなくて、いろんなものを組み合わせる総合的にやっていく、もしくはみんなで連携して色々な課題解決に広げていくということをやることが大事だ、というのを文章としてまとめたというのが一つです。

もう一つはSDGsアクションプランの中でやはり全ての人たちが非常に自分らしく生き生きと活躍できる社会をつくるというそういうコンセプトが重要で、そういう大きな考え方

の元で誰 1 人取り残さない、もしくは差別をなくしていく。そういった平等な社会を作っていくということが大事ですというのを示すべきだというご意見もありました。そういう意味では考え方のベースとなっている誰 1 人取り残さないという基本理念ですね。そのベースとなっている人間の安全保障の考え方を踏まえ、考え方を記載しています。その上でジェンダー平等と女性のエンパワーメントが非常に重要だということを 3 パラ目に記載させていただいています。ジェンダー平等に関する取り組みが、アクションプランの優先課題の①に入っていますけども、全てのアクションプランの取組において、ジェンダー平等を重要な手段として捉えることが重要ですので、全体にかかるような位置づけをさせていただいています。

また、SDGs アクションプランを国も作っております。これは予算額を整理したのですが、その中で重要事項というのが示されております。これは毎年変わってくると思えますけども、毎年この辺は国の方針に合わせて入れ替えていくような形になるかと思っています。例えば感染症関係だとグローバルヘルス戦略ということですが、コロナ対策の関係が中心になってきます。当然女性活躍というのも重要な視点に入っておりますし、最近よく耳にするデジタル田園都市というのは、今国が非常に推進していきましても分かるように明記させていただきました。当然クリーンエネルギー、海洋プラスチックごみ、その他諸々国の重要だと示されている事項についてはこちらの方にも関係も含めて整理させていただいたという経緯になります。

次のスライドから、優先課題ごとの目標、アクションプランとなります。前回委員から意見をいただいたところにポイントを絞ってご説明させていただきたいと思えます。

まず倉科委員からいただいたご意見は 22 ページに関連する内容になります。この優先課題⑫番の 1 と 2 それぞれご意見いただいております。まず当初公共インフラに関する交流というか、技術交流という形で公共インフラに関連するものではなくてもっと幅広くということでご意見をいただきました。ハワイ等という記載もありましたけども、色々な国に貢献して交流していくグローバルパートナーシップを構築していくという観点が重要じゃないかというご意見もありましたので、個別の地域の名前は消して世界各地ということで色々な所と連携していく方向で記載させていただいています。倉科委員の方でも JICA 沖縄の方で非常に幅広い国の方々に連携とか交流をさせていただいていると思えますし、あとは沖縄県の農林水産部あたりだと台湾からの品種の導入などで台湾との連携も強いですし、エネルギー部門だとハワイとの関係も強く、まさに各地とのグローバルパートナーシップというのはできつつあるのかなと思ったりします。さらに広めるという意味でも具体的な地域を書かずに広く見えるような形で整理させていただきました。

あと首里のすけ委員からいただいたご意見については、特に琉球舞踊の継承等、伝統文化の継承については沖縄の県民に限らず県外の方々も巻き込んでというご意見もありました。これは関係部局との議論をしているところでございます。アクションプランの中で具体的に何かということでは今のところないですけども、今議論させていただいているとい

うところでございます。

新膳委員の方からはいくつかありましたけども、5ページの方の①-4ですね。こちらは6ページになります。①-3ですね。やさしい日本語という考え方を入れるべきだという意見があって、この話については人間部会の方でも同様の話をされている委員もいらっしやあって、これは入れる方向で整理をさせていただきました。

あとは長濱委員からは社会教育と学校教育をつないで若い方々が地域にもっと入ってくれるように、そういったご意見がありました。こちらアクションプランではなくて25ページ、最後のページの方に、地域づくりの中で色々組み合わせていきたいと思いますという中に、ここに「世代を超えた連携の促進」ということと「社会教育の充実」という形でこういった形でまず落とし込んでいって整理をさせていただきました。伝統文化の継承みたいな取り組みもありますし、働くというところも総合的に組み合わせる地域づくりみたいな形で、若い人から幅広い世代が連携する絵姿というのが作れないかなと思っています。ただ、この絵については色々ご意見いただいて充実させていく、もしくは軌道修正していくということも考えていますのでご意見いただければありがたいなと思っております。

平田委員からは色々いただいております19ページの方で伝統文化を知ることではなくて触れる機会を作るべきだというご意見をいただきました。おっしゃる通りで、これは反映させていただきました。その他サンパウロも含めた海外の事例とか、あとは具体的な木材の調達、伝統文化、伝統工芸も含めて色々ご意見をいただきました。そういったご意見については部局とも情報共有しながら具体的な取り組みも意識しながら議論を進めているところでございます。

このような形で皆様のご意見もありますし、市町村のご意見もありました。恩納村さんからもご意見があって、恩納村の取り組みも反映させていただきました。意見を集約して、その上でゴール、関連するターゲット、それに関する指標、現状値、目標値・参考値は必ず参考値が必要かどうか、指標によって違いますので必要な物は全国値を入れたり全国平均値を入れたりということで比較できるようにしていくということで整理をした次第です。

最後に、統合的なモデル事例の図を簡単にご説明させていただきますと、まずテーマは五つあると申し上げましたが最初のテーマがエネルギー関係の話になっています。経済、社会、環境と3側面の整理をすることが多いので、その観点で再生可能エネルギーを中心に島嶼型エネルギー社会というのを整理しています。2番目が食品ロス、サーキュラーエコノミー。この辺は地球部会の方でかなりご意見がありましたのでそちらを踏まえて整理をさせていただきました。健康長寿とスポーツ振興という観点で、これは人間部会の医療の話もありましたし、繁栄部会の中でのスポーツも含めた観光産業の話もありました。それを総合的に整理したという経緯になります。あとは子どもの貧困。子どもの貧困の解消という意味で経済成長という観点も必要だといったご意見と、今非常に困っていらっしやる世帯も含めたサポートということで、しっかり沖縄県子どもの貧困対策計画に基づいて色々取り組みが進んでいますけど、そういった位置づけとちゃんと組み合わせた形で整理

をしていると。あと、フードドライブということで未利用食品。未利用じゃなくても良いですが生活困窮世帯に食品を配るフードドライブという活動が進んでいますけど、そういったものも含めて環境面の効果も整理したという経緯になります。最後に、多様な人材が活躍できる地域づくりということでパートナーシップの要素がかなり強いと思いますけど、外国の方々も含めて地域づくりをしていくという観点で整理をしたということでございます。

説明は以上です。

(進行)

事務局ありがとうございます。それではこれから委員の皆様へ資料1、資料2、アクションプランの素案の内容についてご意見いただきたいと思います。御質問でも構いませんし、資料1何ページですとか、資料2のこの部分ということで指示していただいております。ではトップバッター倉科委員をお願いします。よろしくお願いします。

(倉科委員)

ご説明どうもありがとうございました。色々ありますが、まず資料2の4枚目のところで今回新たに付け加えられた重要な視点のお話がありました。まさにいろいろなところが全てに絡んでいるというのはその通りで、書いてある通り複数の取り組みの相互関係、相乗効果を重視して取り組む必要があるというのは、もうおっしゃる通りだなと思いますが、実際やることになった時に一体どういうふうにそれを進めていくのか、どうやってみんなにその視点を持ってもらって進めていくのかということと、評価する時にその関連性みたいな所を、どんな風に捉えて評価していくのか。ここが上がったことが影響し、他の目標のここが上がったとか、きっと色々あると思うのですが、そこをこの一言では進めていく中で迷うことがきっとあるのではないかなというふうに思いました。というのが、良い提案があるわけでもないですけども1点感じたことです。

それから細かいアクションプラン表の話になりますけども優先課題11番目の資料2の20枚目のシートの2番のところで、世界のウチナーンチュとの交流が活発に行われて、次世代に継承されていくという中のアクションに、世界のウチナーンチュのネットワークを活かした企業の海外展開と販路拡大、進出ネットワークというのがあります。一方指標は、ウチナーンチュネットワークサイトへのアクセス数のみになっていて、今の私の知る限りこのネットワークの中で、企業の人々が特化してアクセスがカウントできるような所は多分なくて、もしもこのままの指標でいくならこのサイトの中にそういう企業の人たちが集うような場所というのをちゃんと作って行って、そこを測っていくというふうにする必要があるかなと。そうでなければビジネス用の別の指標を作らないと測れないのではないかなと思っています。私たちも今特にポリビアの沖縄移住地とビジネスの連携というところでサポートもしたりしているので、それらの実績は私たちでも提供はできるかなというふう

に考えております。

もう1点は優先課題⑫番目ですけど、ここ1番も2番もさまざまな意見を聞いていただいて、世界各地という各国という言い方になっていますが、ここの頭に書かれている文言が世界の島嶼地域における技術、経験の共有と国際貢献グローバルパートナーシップになっていて、島嶼地域に限るのはおかしいかなと。沖縄の経験や交流は世界、全世界に有効であると思います。ここは島嶼地域ではなく、島嶼地域等にするなど、もう少し広く読めるようにした方がいいですし、目標にもその方が合っているだろうというのが1点。それから1番目の所の指標が国際協力貢献活動に関わった海外研修生の受入団体数になっています。これは振興計画の目標と指標と全く一緒ですね。振興計画は過去との比較があるのかと思いましたが、アクションプランはこれから作るのであれば、そもそも研修員の受け入れに限る必要ってあるのだろうか。海外との技術の交流というのは、それに限らずいろんな方面でやっていて、例えば沖縄から人が海外に行って技術の指導をしているとか、民間企業がその技術でもって途上国の課題解決をしているとか色々あるので、そこを限らない形、海外貢献活動に関わった団体数というふうにした方がより広く取れていいのではないかなというふうに思いました。

最後にこれも今さらですけども、2番目の目標が「グローバルパートナーシップを実現する」となっています。目標は皆「実現する」になっているからそういうふうな書き方なのかもしれませんが、グローバルパートナーシップを実現するって一体どういう状態のことを言っているのかというのが非常に分かりにくくて、何ができたらグローバルパートナーシップが実現しているのかなと。かつ、指標も関連の活動をした団体数で、増えなければいいということになっていることからすると、グローバルパートナーシップを促進するという方が、指標とかにも合致しているのではないかなと思いました。

ちょっと長くなりましたがとりあえず以上です。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございました。少し事務局から補足コメントをさせていただいて、また次の委員にという形で進めます。よろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございます。非常に丁寧に見ていただいてありがとうございます。統合的取り組みのところから、まずお話しさせていただくと、取り組みについてはよく言われることですけど、我々県庁の中でも具体的に何を、どういうものを目指すべきなのかというのは非常に分かりづらいというのがあります。ただ、原則ではありまして、非常に重要な観点ではあるので、ご指摘の文章のところはちょっと形式的なものに見えるかもしれませんが、こういうことが大事ですということをお伝えさせていただいた上で、後半のモデル事例という形でちょっと3側面の絵を描かせていただきました。環境、社会、経済ですね。

大きく書きすぎていてちょっとつかみづらいところがありますが、その中で関わっていくという、こういった取り組みはこういうところと関係して総合的な取り組みとして相乗効果が期待できるということで、相乗効果もこの絵の中で記載するような工夫をさせていただいて、ちょっとイメージを、例えば脱炭素だったら脱炭素というテーマの中での統合的な取り組みというのをイメージしていただく。そんなイメージでまずは始めてみようかなと。成功事例を他の自治体も色々調べていますが、あまりないところでございまして、ちょっとやりながら色々工夫していく、他の都道府県、市町村の取組も参考にして工夫していくということでちょっと対応させていただければありがたいなと思って、特に評価でどこまでやるかというのは非常に難しく、ここはまさに今後の課題として引き続き議論をさせていただければと思っております。もう一つが、指標ですよ。

(倉科委員)

優先課題⑪の世界のウチナンチュとの交流のところです。

(事務局)

失礼しました。こちらについてはまず指標については目標についているということでご理解いただいて、アクションに個別に張り付いているものではないという前提でご理解いただければと思っております。アクション全部につけるというのよりはそれぞれの指標が必要になって、ちょっと難しくなってくるので目標に向かって取り組んでいくために、例えばどんなアクションが必要かというのが整理されております。ただ指標については大元の目標について記載させていただければと思っていて、そういう意味ではウチナンチュネットワークは継承されていくというところにアクセス数ということで今入れていると。ただ、アクセス数がいいかどうかというのはまだ議論が必要で、アクセス数についてもまたもう一つの話に関連しますけど、新たな振興計画の成果指標として独自指標として設定されているものであります。これは、来年度また議論が今後進んでいきますけど、その中で例えば指標を変えていくことも含めて、多分あると思います。その際にはまたそれに合わせて指標変更していくということでアクションプランの見直しをさせていただければと思っております。前提としては観光関係の部局、交流関係の部局、国際交流の部局もあってその考え方をちょっと尊重する形で入れさせていただいているというところでまた来年度の議論で見直しを検討していければと思っております。

あと、島しょ地域の記載については、優先課題の表記について新たな振興計画の本文にも記載されているところで、今すぐにここを見直すことが、文章のちょっとした変更も含めてちょっとできない現状です。審議会の答申もあったところですので、これはちょっと解釈的な観点でやらせていただきたいなと思っております。そういう意味ではアクションとか目標からは軌道修正する形で記載させていただいておりますので、そういうご理解をいただければと思っております。

まさにさっきの海外研修生受け入れ論の話もおっしゃる通りで、国際交流、国際貢献の所をうまく評価する指標と目標設定というところで、現時点ではここがまず俎上に載せるベースになっているところをごさいますて、今後こちらの方も議論を来年度、変更も含めて目標設定も含めて議論がされていくところですので、その議論も含めて方向性が変わってきたところで見直し等の議論をさせていただければと思っていますところで、歯切れの悪い話ですけども、そういった観点でご理解いただけるとありがたいなと思っています。いかがでしょうか。

(倉科委員)

ごめんなさい、最後の点ですけど、つまり今も指標は変えられないっていうそういうことですか？今この時点では。

(事務局)

海外研修生、代替する指標などいただいた意見をもとに国際交流の部局と相談させていただきます。目標設定も含めてデータを集めてモニタリングをできるかどうかということも検討する必要がありますので、引き取って意見交換させていただきたいと思います。場合によってはこのまま進めさせていただきつつ、今後の見直し作業の中では置き換えていくということにもなるかもしれません。この方向でもよろしいですか。

(倉科委員)

そうですね。現状も JICA からの情報提供でこの数は作られているのではないかなと思います。であれば研修生に限らない数を出すことは可能です。研修生に限る意味というのがあんまりないですし、1回決めてしまうと結局引きずるので、最初の段階で変えられるのだったら変えた方がいいのではないかなと思いますが、最終的には県の方で決めることだというふうに認識しております。

(進行)

ありがとうございます。よろしくお願ひします。では国際交流つながりというところあれですけど、新膳委員いかがでしょうか。お願ひします。

(新膳委員)

ありがとうございます。私画面共有でもよろしいですか？資料。資料2の方ですけども、私の方からは三つですね。大丈夫ですか？

(事務局)

共有はされているとありますが画面表示がまだ黒くなっていて見えなくなっていて。

こちらも許可はされていますので多分共有できるとは思いますが、もう1回共有し直してもらっていいですか。落ちたかな。

(新膳委員)

多分私のパソコンのスペックの問題っぽいのでちょっと資料2の共有お願いしてもいいですか？優先課題の①の6ページですけども。ありがとうございます。はい、もう一歩前ですね。ありがとうございます。先ほどおっしゃっていただいたようにやさしい日本語を組み込んでいただきたい。ありがとうございます。ちょっと私の方で今回お話しさせていただきたい部分がこの3番の二つ目の黒丸のところで「国籍に限らず地域の住民が地域課題解決に参画できる機会を作るとともに、子どもたちが教育を受ける権利を保障し」というところですけども、これに対しての指標が、この理解促進や外国の方が住みやすくなる取り組みを実施する団体の割合ということですけども、教育というのはおそらくもっとも取り組まれているのって市町村かなということを思っていて、実際に今県内の小学校で、外国籍の子どもたちの日本語支援をやっている日本語教室というのがおとしの時点で確か19か所ぐらいしかなくて、全県を網羅しているというわけでもないみたいようです。さらに実態となってくると、そこに専門的な日本語の教師がつくのかというわけではなくて学校の中での人員配置の中で、外国籍の子だからということで英語ができる教員が配置されることがあるなど、そういうミスマッチがどうしても今の課題として上がっているものもあります。それがやっぱり教育を受ける権利というのにまさにつながってくるかなというふうに思っていて、更に言うと日常会話をペラペラでも、学習言語を習得するのに10年かかる。なので、7歳で小学校入学してもみんなに追いつけるのが17歳というかなり深刻な問題だと思うんですね。ただ、市町村の中で本当に取り組まれている市町村もありますし、この辺の数値が出てくるといいのかなというところを思っていて、初めは数の目標、それからその次に段階として質の向上という数値が立てやすいのかなというのが思いました。

あと言葉尻で申し訳ないですけども、四つ目ですね。外国人や外国人につながる子どもたち同士の交流や、孤立を防ぐということコミュニティを作ろうというような所ですけど、これも段階としてはもちろんすごく大切な一歩だと思いますが、やはり地域と外国人とのお互いの歩み寄りというか、お互いに一緒に作っていくというところが言葉としてあった方が、どうしても棲み分けに聞こえてしまったら怖いというのは感じました。そういうところと、あと医療のところでもこの医療2番で「全ての人々に対する普遍的な医療提供体制が充実し」というところですけど、やはりこちらについても実はコロナ禍においても、そもそも外国人が多言語のコロナの相談窓口が全くゼロだったんですね。県の方も国の方もかけても実は対応がなかった、なかなか相談窓口がなかったという繋がらなかったという相談がものすごくウチの方にも他の団体さんにも寄せられて、というところがあって、さらに医療従事者の方からも相談があったり、医療のさらに医療通訳というところも

もちろん取り組まれている医療機関あると思いますが、医療に繋がるような日本人だったら基本的に受けられているような社会保険とかそういったところとかなかなか言葉の壁だったり、うまくスムーズにいていないという相談もありますので、ここに離島僻地以外のすべての人という形で、外国籍の方とか在住外国人の方、ルーツを別に持つ方というところ、あってもいいのかなというところを思いました。

(進行)

新膳委員ありがとうございます。まさにおっしゃる通りだなというふうに今痛感をしているところです。コロナ禍においては日本人でさえも不安な中で、外国からこちらに来ている皆様方にとってすごく不安の要素が非常に多かったのかなというふうに感じています。このあたり、また保健医療部の方ともお話をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。よろしいでしょうか。事務局お願いいたします。事務局の方からコメント。

(事務局)

医療については進行から話があった通りで、教育の件についてはこの辺結構難しい、統計的にどこまで押さえきれるかというのがちょっと分からないところなので、指標については先ほども触れましたが、アクションに張り付いているのではなくて、一旦目標を評価する代表例みたいところで捉えていただければと思っています。ただ、教育関係のところは指標の話は何か良い方法がないかは引き続き研究していくということがまず必要で、よりフォーカスを当てて、そっち側を課題解決していくために指標を見直していくというのは当然あってもいいことだと思っています。これは引き続き検討させてください。あと、孤立を防ぐというところがありましたけどもこちらの方は地域も含めてというイメージで書き加えてみようかなと思います。元々の問題意識が多分そういうサポートしている NPO 法人の中の話になっているのかなと思っていて、それは子ども同士の話としての取り扱いだと思いましたが、大きく地域というところも関連させて検討してみたいと思います。こちらの指標についてはご意見を踏まえると団体という見せ方もありますし、市町村というところにシャープに絞って書く方法もあります。もう少し研究させていただければと思っています。基本的に市町村の窓口で外国の方にお子さんがいらっしゃると支援員を配置するための確認作業は行っていると認識しています。引き続き意見交換もさせていただければと思います。

(進行)

ありがとうございました。それでは平田委員いかがでしょうかよろしく申し上げます。

(平田委員)

よろしく申し上げます。僕の方は少し文化の立場ももちろんありますが、やはり面白いな

と思ったのがローカル指標とグローバル指標という二つの指標をある意味比較対照しながら、通じる分についてはグローバル指標でやりつつ、ある意味ローカルならではの指標に対してはという、これはよく文化振興課なんかで議論されている島くとうばと似ているなと思っていてですね。つまりコミュニケーションツールとしての言葉が持っている、いわゆる普遍的な、普及的な標準語が持っている強みと、それから多様なアイデンティティを語る上での自分たち地域の言葉といえますか。そういったものを両方どっちなんだといつも議論しますが、両方大事なんですよ。そういう面で言うならばまさにトータルの中の世界スタンダードの中の沖縄はこれくらいですよというのは、指標で言うならばグローバル指標の中にも落とし込めるでしょうし、あるいはオリジナリティ溢れた沖縄ならではの指標に関してはローカル指標ということで判断できないのかなと。いうならば、今回県の方でされている方法というのは、ある意味すごく良いのかなというふうに直感的に思っているところです。

もう一つは、21世紀ビジョンと沖縄振興審議会等々関わる中で、今回もそうですけども指標と目標の到達地点でしょうか。評価というのでしょうか。県もそうですし、関わる人達って常に目標とその到達を測られて、一番難しいのは指標を何にするかというところ。これは倉科委員が言ったところと共通項ありますが、結局21世紀ビジョンでもそうですし、沖縄振興審議会の中でも議論もそうですけど、アクセルとブレーキ両方常に試されている感じがして非常に困っているんですが、SDGs に関してはもしかすると今アクセルオンリーでもいいんじゃないかなぐらいの感じです。どちらかという。要するにいろんなことをとにかくアクションプランを立てて、そしてそのモデルケースを作って沖縄ならではのいろんなことというものに仕掛けていく、アクションなくしてリアクションなしという言葉ありますので、まずはアクションを起こしてみ、その中でできたいろんなことということに対して考えていくという、言うならばどうしても常に評価の対象とか、それからそういう目標値に対する到達度みたいなものを言われますけども、あんまりチェックされることに、むしろブレーキをかけすぎない方がいいのではないかと考えています。SDGs という考え方自体がそんなに一般庶民の中には、僕も含めてですけど、なかなかポトリと落ちてこない。何が違うのだろうかという。新しい考え方一つだなんて思っていますが、何かそういったところで言うと、いわゆるハイブリッドなというか、会社とかそういう企業とかは理念として持つことは可能かもしれませんが、中小企業が多いこの沖縄でどういうふうに落とし込んでいくのかというのは課題だなと。21世紀ビジョン、それから沖縄振興審議会等々の議論と一緒に、常にどう一般の方々に伝えていくか、アプローチするか、アウトリーチするかというところの課題というのは付いて回るなという印象は持っているところです。凄いですよね。今回僕もプリントアウトを1回暫定版でプリントアウトしてしまって、今回届いたもので50枚ぐらいあるページを2回やってしまっているの、ちょっとオンラインもお悩み事だなと思っていますが、これは小言でした。

最後に1個だけ。モデル事例がありました。僕はこれすごくいいと思いました。一つは

モデル事例のまずテーマの5ですね。多様な人々が活躍できる地域づくりの中の左下のところ。先ほど事務局からお話があったとおり社会の括りの中で全ての人の暮らしやすさへの支援のところですね。29 ページですか？最後のページだと思いますが、障がい者高齢者などの就労支援、能力開発支援と書いています。僕はこの北中城にあるはなさき支援学校の学校評議員もやっていますが、ちょうど先週おこなわれた評議員の中でいわゆる18歳で高校卒業した後もやはりその障害を持った子ども達が、いわゆる大人になっていく段階での社会に放り出されると言ったら変ですけど、という親の意見がすごく多いです。18、17まではいいと。けれども卒業後の就労の支援、それから就労支援先の開拓というのでしょうか。そういったところが大きな課題だという話が出ていて、本当に課題として突きつけられた感じがしました。その支援のA型なのかB型なのかにもよりますが、A型が少ないということも1点ありますが、そういうことを考えてみると県外ではそういうプロデューサーとかプロモーターがうまくいけば、その本当に個性を光らせられるような取り組みというのも実際に商品化をされたり展開されたりするということもありますので、僕は誰1人取りこぼさないという観点で言うならば、その就学児、未就学でも就学先、卒業後の障がい者の皆様の今後というものを社会全体どう考えていくかということはずごく重要なかなと思ったので、この部分というのをピックアップされている部分、すごく重要なポイントだなというふうに感じるどころです。

そして最後もう1個は、貧困の部分ですね。僕は今回貧困の中で言うとモデルの4ですが、貧困ってある専門家からすると、経済的な貧困、知識の貧困、関係の貧困と三つの貧困があるというふうに言ってらっしゃる方がいらっしゃって、経済的な貧困とか知識の貧困というのは連動していて、経済的な豊かな家庭の子どもであれば、いろんな知識を得る機会が多いというような差、それに関しては沖縄子どもの未来県民会議含めて結構精力上げてやっていると思います。問題は3つ目の関係の貧困かなというふうに思っていて。関係の貧困というのは言い換えると僕はきっと出会いの貧困だと思っています。つまり良い出会いがあれば、子ども達の中に自己達成感ができたり前向きになれたりというような、心の貧困には絶対にさせないということではできるというふうに思っていて、文化芸術の役割ってまさにそこであると個人的に思っているところです。文科省のデータによると、10歳から15歳のときに出会った芸術的な衝撃による部分というのが人間形成において大きな意味をなすということで、子どもの頃の感動体験というのは重要だということで、沖縄子どもの未来県民会議等々で事業を通してあらゆる子ども達と出会う機会をいただいていますけども、ぜひこのモデル事例の中の子どもの貧困解消の中に、そういう出会いの機会を作る、いわゆる対策、対応。これを取ることによってかなりの部分は自らで立ち上がって、自らで切り開いていくという貧困の沼から出てくるような人材育成というのが十分可能ではないかと文化を拠り所としている僕自身としては確信していますし、そのような取り組みを沖縄ならではのオリジナリティある持続可能な取り組みというところで推奨していければいいなと感じています。以上です。

(進行)

平田委員ありがとうございました。そうですね。指標については非常に事務局も悩みながら作ってきたところではありますけど、言っていただいて非常に嬉しく思います。ありがとうございます。また貧困の問題についても長く関わっていただきましてありがとうございます。今ご提言のあった件については入れ込むような方向でちょっと検討をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(平田委員)

頑張ってください。

(進行)

ありがとうございます。では社会教育という現場・公民館で活躍されています長濱委員、もし何かございましたらよろしくお願いします。

(長濱委員)

私から二つほど。一つは資料1の16ページです。16ページの右側の一番下、新たなSDGs認証制度というところの仮称のところ。多分これは登録制度の評価にあたると思いますが、その時にたくさんの企業が登録してくださって頑張っているところなので評価は当たり前だと思いますけど、その時にこんなことを頑張っているというチェックシートみたいなものが先にあると企業さんも頑張った分が評価してもらえるかなと思うので、これから進むと思いますけど、何か検討してくれたら嬉しいなと思います。

次は資料2の方です。資料2、4ページの・の三つ目。自分事、我が事として捉えるというこのあたりが気になりまして、沢山の指標とかターゲットとか色々ありますが、企業とか大人向けというか、そういう評価になりますよね。でも、みんながやらないといけない。SDGsなので。何か1人1人が共通の目標をあげて、何か向かうところ、全員ができる何かクリアできる。8年後に達成感が1人1人にあるような、どこかに事例でもいいですけど、そういうサークルを作れないかな、載せられないかなと思っています。事例いくつかこれから増えていくと思いますが、ここの取り組みも達成できる、こうやったら達成できるみたいなどどこかに事例あれば県民全員でできるかなと思っています。そうしないと企業さんだけとか大人だけとかいう目標に向かっちゃいそうなので、みんなでやるという方向性が今からでも少し見えて欲しいなと思っています。以上です。

(進行)

長濱委員貴重なご意見ありがとうございます。事務局の方から少しコメントさせていただきます。認証制度についてです。お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。認証制度はおっしゃる通り登録制度と認証制度と二つ想定して、登録制度はいろんな方々に登録いただいています。SDGs に取り組んでいる企業とか団体を見える化していくという、そういう視点が今のところ強いですね。認証制度についてはさらに踏み込んで色々さらにコミットできるような、具体的に基準を設けて、基準をクリアしているようなところ踏み込んで認証するというので、登録団体からさらに取り組みを進展させていただくということをイメージしながら検討しております。まさに評価基準というか評価項目を調査、整理をしているところです。県内の金融機械とかにもヒアリングをかけて、例えば金融機関から見てこういう評価ってどうでしょうか？というようなことの見を集約しているところです。来年度にしかありませんけども、ある程度形ができたところで当然オープンにお示しして、それに向けて皆さんで関心のある方々に取り組んでいただけて申請いただくというアプローチを想定していますので、そういった観点で進めさせていただきたいと思います。

自分ごとの件につきましてはおっしゃる通りで、この辺はいつも難しくて本当は県民1人1人身近なところから取り組んでいただきたいという思いが非常に強いんですけども、こういうアクションプランを作り出すとだんだん難しくなってきたり、ちょっととっつきづらいうところが一般の方々からするとあるのかなと思って非常に今おっしゃる通りだなと思っています。ちょっと工夫できるところがないか少し考えるのと、あとは統合モデル事例みたいな所の中でももう少し個人レベルのものでできるものを書き加えられないかというところを合わせて検討したいと思います。脱炭素の中でも省エネ行動というところでちょっと分かりづらいかもかもしれません。書いたりしていますけど、何か工夫できないのかなというのが一つと、もう一つアクションプランからさらにパンフレットとか普及啓発用のツールは作るはずなので、その中でもうちょっと一般向けのコンテンツを入れた形で分かりやすいガイドブックじゃないですけど、そういったもの作る工夫も考えておりますので何かしら工夫していきたいと思います。

(進行)

ありがとうございます。満尾委員よろしいでしょうか。

(満尾委員)

承知いたしました。最近、SDGs に関しまして色々な有識者の方々やおきなわ SDGs パートナーの講演等により、様々に知識を得る機会が増えておりまして、そのような方々の意見の受け売りになってしまうかもしれませんし、これまでご発表された委員の皆様方のコメントとも重なるところも多々あるかと思いますが、いくつかお聞かせいただきたいと思います。

まず全体的な話といたしまして指標を作られています。目標値などは誰が評価するのかと思いましたが、自己評価か、第三者評価か、それともこのプラットフォームが行うのか、どこがされるかなと思いましたが、今発言しましたこのプラットフォームについては、私は組織と言っていいのでしょうか、こういう形態のものを作るのは非常に望ましいかなと思っています。沖縄県さんが多分中心になると思いますが、SDGs を一つの共通言語にして様々なステークホルダーと対話ができる機会がここでできるというのは非常に望ましい形態であると考えています。ただし、そこが評価を行うのかどうかというのはまた別次元の話だとも思いますが、評価に関してはどう行われるかについて教えてください。

それから、これもある有識者の話ですが、ゴールがそれぞれに定められていて、そのゴールを達成するかは何年かかるか分かりませんが、達成したら次のゴールが生じたり、そのゴールを目指す過程の中で17のうちのまた別なゴールが生じたりすることがあるのではないかと思います。そうすると今ここにゴールがいくつか示されていますけれども、これらの指標に関してもそうですけれども、一定期間やって見直すのか、それとも毎年やって見直すのか、そういった進め方というのでしょうか、お考えがあるのでしょうか。時代の変化する速度がこれだけ速ければ、色々見直さなくてはいけないことが多分にあるかと思えます。そうすると同じものがずっとあるというのは恐らくありえないかなと思っておりまして、どれくらいの周期で行われることになるのかと思いました。

他方、資料中にいくつかDXという言葉が出てきます。私はDXというのは沖縄県にとっではすごく望まれている概念ではないかと、個人的には勝手ながら思っています。例えばこのDXを産業の振興だけではなくて、沖縄県でDXを担う人材を育成するという方向で、なんらかの形で進められる方策というのではないものかと思えます。DXというのは非常に可能性がある分野だと思っていますので、その人材育成の部分で沖縄県として取り組まれることがあればいいのかと、この言葉を見ながら思ったところであります。

(進行)

ありがとうございます。そうですね。まさに自己評価、どうしていくのかという所と、プラットフォームの在り方。そうですね。見直し、DXというところで事務局の方から少しコメントさせていただきたいと思えます。

(事務局)

プラットフォームと評価の話をしていただいています。これについてはまず評価については指標に対してどうなっているのかというモニタリングの結果です。データの整理は我々でまとめやります。我々でできないことは関係部局の方にも協力してもらって、毎年データを指標に対して集めて、皆様にお示ししようと思っています。その上でもう一つ関連しますけども、毎年その状況のモニタリングを恐縮ですけども皆さん一緒にやっていただきながら、委員の皆さんとやりながら、進展しているところは伸ばしていくし、進んでいない

ところは見直し、アクションを含めて見直しや具体的な施策の提案もいただいて我々が関係部局に伝えながら取り組みにつなげていくというようなアプローチをしていこうと思っています。そういう意味で毎年状況を評価して、必要あればアクションプランは指標の設定も含めて毎年見直していくという形で、かなりフレキシブルにやらせていただこうかと思っています。今回ちょっとこのベースでアクションプランを立ち上げさせていただいて、今後の見直し作業の中でも随時変えていくということでご理解いただければありがたいなと思っています。

最後に DX、ご意見いただきましたけど DX は非常に今活発なご議論いただいている ICT の導入という考え方もありますし、そうではなくて IT、情報技術を使って社会そのものとか色々な仕組みを大きく変えていく、トランスフォーメーションという話が入っています。まさに SDGs 自体がトランスフォーメーションで SDGs を進めるにあたって、DX というのは非常に大きなツールだという捉え方をされていると認識しています。そういう意味で全体にかかるものではありませんが、人材育成も含めてどんどん活用していくという観点で取り組みとしては我々の県の中でも今どんどん進めようという話になっています。情報関係の所にはちょっと DX という書き方で産業の所に寄せて書いていますが、他のところでハマるようなところがないかということと、人材育成のところでは進めていくことにはなりますけども、この中に何か表記できないか。そこは検討させていただければと思います

(進行)

ありがとうございます。チャットの方にも倉科委員からも書き込みありました。ありがとうございます。よろしいでしょうか。では首里のすけさんお待たせいたしました。先日新聞でお笑いライブを福岡でという記事を拝見いたしました。笑いを通して SDGs 若い世代に伝えていっているかと思います。是非ご意見ありましたらよろしくお願いします。

(首里のすけ)

ありがとうございます。せっかくお話しいただいたので、その SDGs のお笑いでいうと今オリジン・コーポレーションで SDGs マンというコントを作っています、今度 3 月の 12 日にパルコで県の健康長寿化が、この SDGs と絡んだ健康寿命や沖縄県の働き盛りの寿命がやばいと。寿命というか健康が危ないというところに、普及活動をするようなコントを作っています、怪人生活習慣まっしぐらという怪人を SDGs マンが退治するという台本を作っています、そういうものを作ったりして勉強しながら皆さんに少しでも落とし込めるよというか、一緒に勉強しながら感じでコントを作ったりしていますね。

指標とかこんな感じで作っているというとても大変そうだなと見ていて、ちょっと局地的な話になってしまうかもしれないですけども、21 ページのナンバー 3 ですね。首里城の復元と琉球歴史文化の復興に向けたという、様々な活動等に地域、世代を超えて取り組

むというところで、指標が県内文化施設の稼働状況というのがありますが、局地的になるかもしれないんですけど、県民の首里城の来場者数とかに絞ってもいいのかなと思いついて、今週末に首里城の周辺で沖縄県の主体でイベントがあったり、龍潭のライトアップとか中城御殿跡でイベントがあったり、2026年までの正殿復興までの間、そして北殿とか順次復興させていくと思いますが、このアクションプランという2030年までの間と、首里城復興までの間がせつかくリンクしているという部分と、消失した後に首里城1回も行ったことないという県民が僕の周り結構耳に入る分に多かったので、その時に県内、県外という統計の取り方が多分していないのではと思うので、その現状値というか目標値との差というのはどう設定したらいいか分かりませんが、これから作るという所でもまだ局地的と言いつつ、琉球王国の文化、政治の柱であるので、そういう意味ではあながちSDGsの目標とも若い世代が文化、歴史、伝統行事を共有するということともそんなにはズレていないのかなと思ったのでいかがでしょうかという、首里のすけという芸名もありますので、提案させていただきます。

(進行)

首里のすけさんどうもありがとうございます。お笑い長寿、やっつけるんですかね。楽しみにしています。ありがとうございます。また首里城、私も焼失の後行きました。でも、ありし日の首里城に行ったのも2~3回しか実はなくて、もっと行ってあげばよかったなという。どうしてだろう。近くにあつてなかなか行きづらいというところもあったりするので、今おっしゃったご意見、非常に貴重なご意見ですので、ちょっと県庁の中でも検討をしてみたいなというふうに思います。ありがとうございます。では事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

今のコメント通りです。私も生活習慣病を倒したいですけども、課題になっている問題を起こしている側の立場みたいなことで何も言えないです。こちら頑張りたいと思います。ありがとうございます。

(進行)

皆様ありがとうございました今日は恩納村さん石垣市さんにもオブザーバーで参加いただきました。まだまだ時間が足りなくてももう少し言いたかったということがおありかと思いますが、前のように県の方から意見シートみたいなものを送らせていただきますので、是非言い足りなかった、やはりもう少しここを直した方がいいのではないかというご意見がございましたらまたメール等でお寄せいただきたいと思います。ありがとうございます。一旦進行の方、事務局の方に返します。ではせつかくですのでちょっと時間もちょうどですが、石垣市さん、恩納村さん何かご意見等ございますでしょうか。恩納村さん大丈夫で

すか？一言コメントいただければと思います。急なフリで申し訳ありません。

(恩納村)

今日は恩納村企画課當山と申します。皆様の意見からあったように計画作ったり KPI 作ったり評価したりというのは本当に大変だと私も思っているところです。作るだけではなくて、過程が大事というのもこちらの恩納村の委員の皆様からも言われているので、中身をしっかりとやっていくというところが大事だと思っていますので皆さん協力してやっていきたいと思っています。恩納村もまたよろしくお願いします。

(進行)

恩納村さんの當山さんありがとうございました。それでは石垣市様お願いいたします。

(石垣市)

石垣市の企画政策課慶田城と申します。石垣市の方でも実は独自のプラットフォームを構築ということで取り組まないといけないですが、なかなかプラットフォームの形とか体制とか、あとはプラットフォームが市民やステークホルダーに対してどういうサービスが提供できるのかというところなかなかちょっと掴めていないのが実情で、県の今取り組んでいる形とか体制をまた研究しながらウチの方も作っていきなと思っておりますので、これからまたよろしくお願いします。

(進行)

慶田城様どうもありがとうございました。それでは一旦事務局に返したいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。ちなみに恩納村さんと石垣市さんとは登録制度とか認証制度とかプラットフォームとか常に意見交換させていただきながら、重複したりしないようにうまく組み合わせられるように相談をしているところでございます。また引き続き別の会議で相談させていただければと思いますので、よろしくお願いします。それでは今日活発なご議論ありがとうございました。どうしても時間に限りがありまして十分ではないところがあるかと思いますが、改めて様式等を送らせていただきますので、ご意見いただければと思います。また今日の議論につきまして前回と同じですけども議事概要たたき台を作らせていただいております。ご確認いただいた上でホームページにて公開させていただきますのでよろしくお願いします。

それではこれで今日予定していた議事は以上でございます。以上をもちましてパートナーシップ専門部会、終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。